

一般質問

松山議員

その他の質問
・救急救命体制について
・福大医学部付属病院の新救命システムについて

シティーセールスについて

Q 質問

①「シティーセールス」の現状と、今後の戦略的取り組みについてはどのように行っていくか。

②市民の民間活力を生かしたMICEの誘致、開催により積極的に乗り出すべきではないか。

A 答弁

①現状は、各課による個別の情報発信、全国のイベントなどでの分野に限ったセールスを行っている状況である。今後、観光・商工・農林・企画・広報等の担当課に福祉、教育担当部局を加え、全庁的に連携を密にして情報交換すると同時に、メディアの活用等と共に、戦略と対策を持ち、充分に勘案し進めていく。

②勝山市には勝山ニューホテル等の宿泊、大会会場が整備されていると共に、建設が進む新体育館もコンベンション会場として期待されるなど、恵まれた環境にある。今後関係団体等との連携を図りながら、課題を克服し、民間レベルでのMICEや民間活力を生かしたMICEの誘致に対して、様々な角度から支援に取り組んでいく。



いきのうつのやまパーク

まちづくりについて

Q 質問

①まちづくりを展開していく使命を持つ新しいジオパークまちづくり課の担う役割はどのようなのか。

②次世代に繋げるまちづくりとして、多様化する地域の課題にきめ細かく対応していくため、市民が活動しやすい環境を整え、連携を深め市民の参加と協働のまちづくりをどう進めて行くのか。

A 答弁

①新しい組織は、これまでのエコミュージアムで培ったまちづくりの成果をジオパークの推進力として生かして、エコミュージアムを継承したジオパークによるまちづくりを推進するための大きな役割を担う位置づけとなる。

②現在のまちづくりは、まちづくり団体などによって活発に行われているが、一方で参画されている方は、大半が決まった方で年齢の高い方が多い状況である。今後、まちづくり活動の体験がない若者や女性に向けて、きっかけづくりとなる仕組みを市民と協同して考えていく。

※MICE（マイス）：会合、奨励旅行、国際会議など大規模会議、展示会の頭文字を取った造語

北川議員

その他の質問
・道徳の教科化について

認知症の国家戦略と市の取り組みについて

Q 質問

国は認知症の人への支援を強化する初の「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」を正式に決めた。そこで国の認知症国家戦略に伴って当市の取り組みについて伺う。

①認知症サポーターが患者や家族を手助けする仕組みはどのように展開していくのか。

②初期集中支援チームの取り組みについて

A 答弁

①認知症サポーターの役割は、認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して見守ることとなっており、対して見守ることとなっており、すぐに直接患者と家族を手助けすることは少ないため、市では、認知症サポーター養成講座に、さらに地域見守りや介護保険等の講義を加えた「地域いきいきサポーター」の養成を行っている。

②認知症初期集中支援チームの実施は、専門職の確保が課題となるため、県事業の活用や、もの忘れ検診やもの忘れ相談会を実施しながら、平成30年度までに実施について検討していきたい。

マイナンバー制度について

Q 質問

社会保険と税の共通番号制度「マイナンバー制度」が平成28年1月より実施される。そこで今年10月より、市民一人一人にマイナンバー通知が届けられるが、内容の知らない人が多いと聞く。市民への周知について当市の対応を伺う。

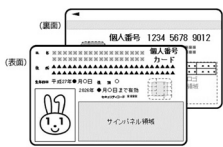
①市民にとってどのような利便性があるのか。

②個人情報の漏えいや不正利用の防止について

A 答弁

①市の窓口で、例えば福祉関係や各種申請の際に住民票や所得証明などの添付書類が不要になるなど簡素化が図られる。また正確な所得が把握されることから、税負担や社会保障の公平化が図られ、きめの細かい福祉サービスの支援が受けられるようになる。

②マイナンバー制度は、住民の個人情報を一元管理するのではなく各関係機関がこれまでどおり分散して管理するため、万が一、第三者にマイナンバーが知られても、個人情報漏洩することはない仕組みになっている。



提供：内閣官房ホームページ